

10

景観計画重点区域3

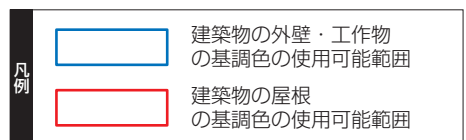
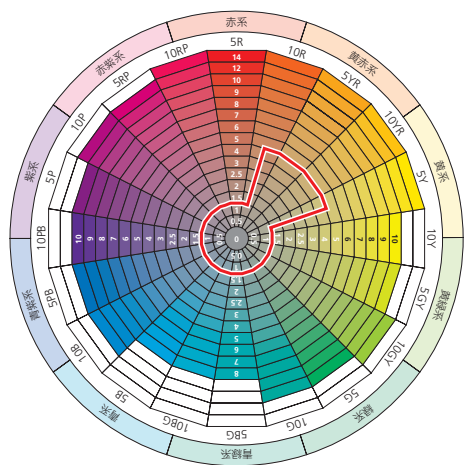
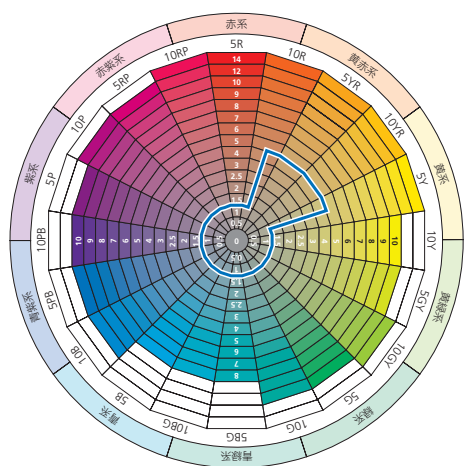
国道1号本町・南町地区の色彩

建築物の屋根・外壁、工作物の色彩

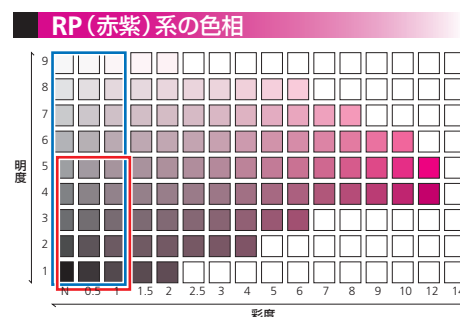
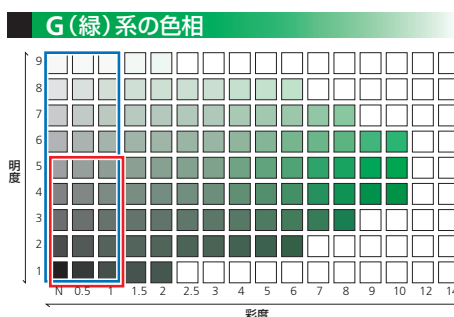
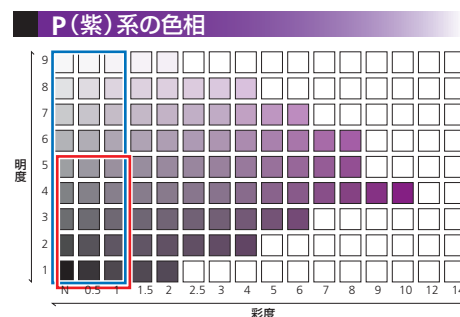
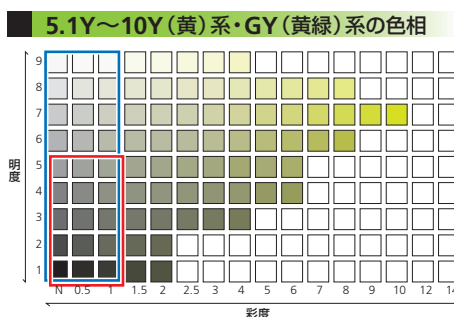
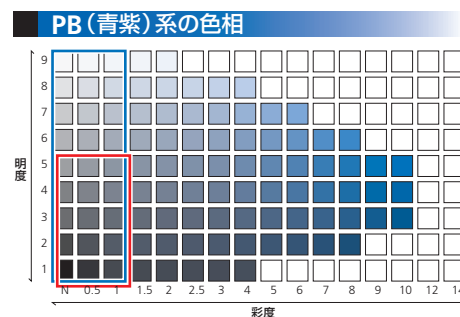
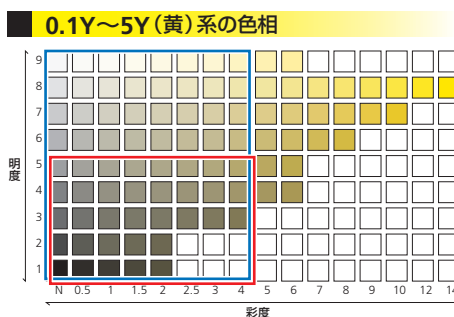
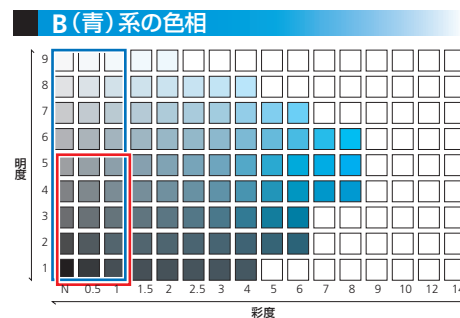
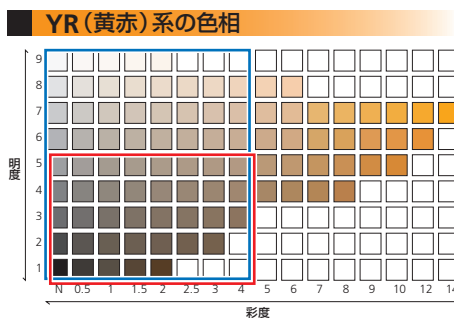
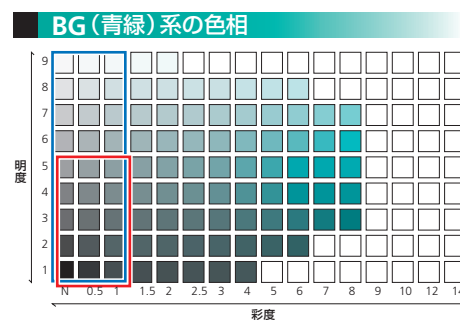
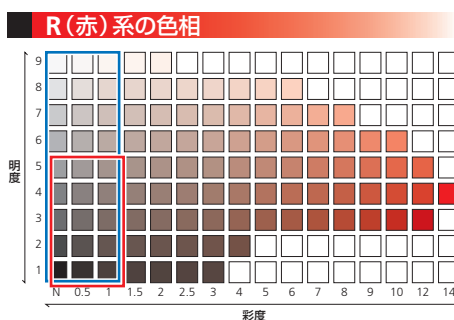
制限の考え方

建築物の外壁や工作物の色彩は、江戸時代における東海道の宿場町として、また近代以降は県西部及び伊豆箱根地域の交流拠点として、なりわいと歴史を積み重ねながら沿道景観を形成してきた本地区の景観を継承するとともに、これまで自主的景観形成地区として育んできた暖かく穏やかな色調を活かし、暖色系の低彩度色を中心に、それらと対比の少ない範囲から用いるものとします。

*建築物・工作物の見付面積の1/5未満の範囲内で用いる色彩については制限がありませんが、できるだけ小面積とし、低層部に集約するなどの配慮により、まちの賑わいと品格のバランスに配慮する必要があります。

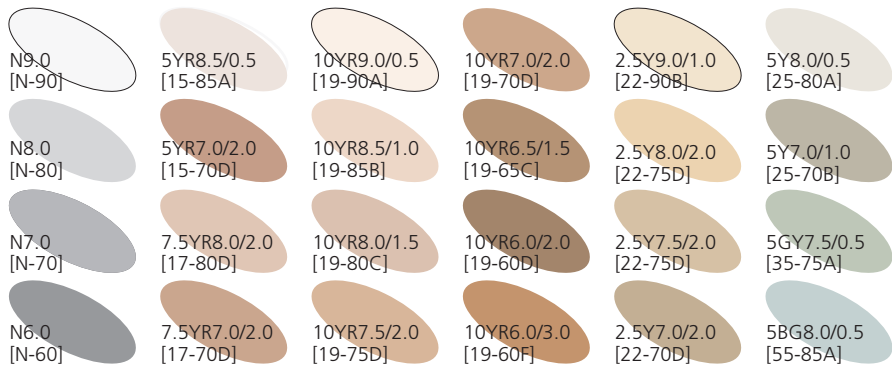


対象部位	色相	明度	彩度
建築物の外壁・工作物	0.1YR～5Y	制限なし	4以下とする
	その他	制限なし	1以下とする
建築物の屋根	0.1YR～5Y	5以下とする	4以下とする
	その他	5以下とする	1以下とする



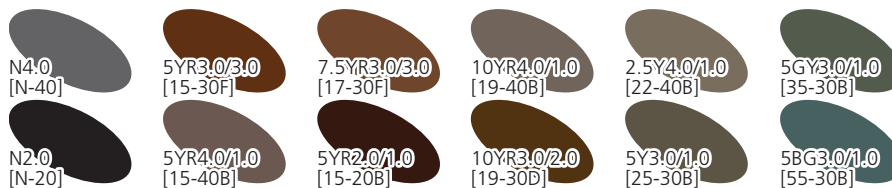
制限範囲内の色彩例—外壁

(記号はマンセル値、[] 内は日本塗料工業会標準色見本帳番号を表しています。)



制限範囲内の色彩例—屋根

(記号はマンセル値、[] 内は日本塗料工業会標準色見本帳番号を表しています。)



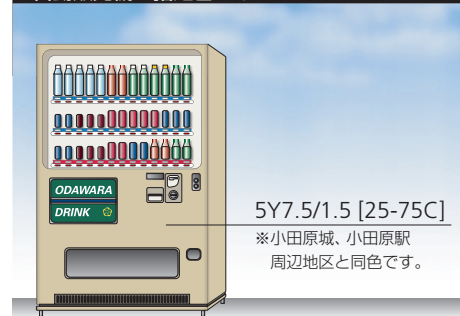
自動販売機の色

制限の考え方

自動販売機等は、周辺景観との調和を考慮し、建築物等と一体的になるよう計画します。自動販売機を屋外に設置する場合は、外装色を5Y7.5/1.5とします。

*ただし、木製の囲い等により周囲と調和するように修景を行った場合はこの限りではありません。

自動販売機の指定色とイメージ

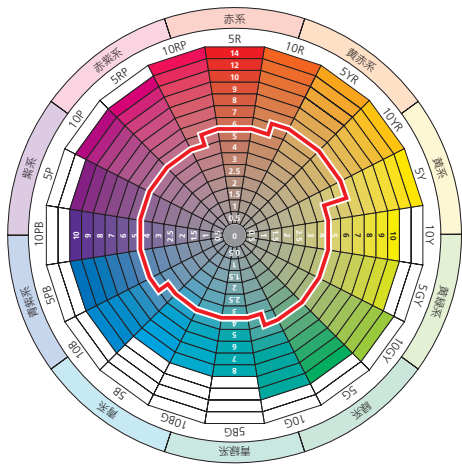


屋外広告物・日よけテントの色彩

制限・誘導の考え方

宿場町や商業のまちとして育んできた風格ある景観と調和した色彩景観を形成するため、屋外広告物の地色^{*1}及び日よけテントは、落ち着いた色調と風格のある穏やかな色調を用いるよう誘導を図ります。

^{*1} 文字以外の部分をさします。面積全体の1/3以内の範囲内で用いる色彩には制限がありません。



対象部位	色相	明度	彩度
屋外広告物の地色 日よけテント	0.1R～10R	制限なし	5以下とする
	0.1YR～5Y	制限なし	6以下とする
	5.1Y～10G、 0.1PB～10RP	制限なし	4以下とする
	0.1BG～10B	制限なし	3以下とする

※カラーの写真や絵画等の部分は、色彩基準に適合しない部分とみなします。

※和風の意匠によるのれん、日よけ幕については、1色に限り上記範囲外の色彩を用いることができます。

屋外広告物の色彩デザイン提案…なりわいと歴史を重ねた風格のある広告景観をめざして



× 原案

地色に高彩度色を用いており、落ち着いた広告物が主体の国道1号沿道の景観の中ではやや突出した存在となっています。屋外広告物も沿道のつながりを大切に、両隣の配慮や協調が、やがてまちなみ全体の良好なイメージへと発展していくように、大切にデザインしましょう。



◎ 中彩度色を活かした表現

原色ではなく中彩度色を用いると草木染めや藍染めなど伝統的な色彩表現と共通性が生まれます。



◎ 素材色を活かした表現

木材などの自然素材を活かすと宿場町の風情を感じさせる歴史的な表現ができます。



◎ 箱文字表現

盤面を設けるのではなく、外壁に直接文字を設置すると建物の外観に違和感なく調和します。



◎ 布などを活かした表現

布製の日よけ幕やバナーフラッグなどを用いると柔らかく可変性のある表現ができます。

色彩景観の考え方

建築物等の外壁：現在のまちなみの基調となっているYR(黄赤)系、Y(黄)系の色相を基本とし、落ち着いた低彩度色でまとめます。

屋外広告物、日よけテント等：落ち着いた色調と風格のある穏やかな色調を用い、材料や表現を工夫します。

建築物等の屋根：風格ある沿道景観を形成するため、低彩度かつ低明度色でまとめます。

自動販売機：指定色(5Y7.5/1.5)で統一します。

